

■日 時 令和7年12月1日(月曜日) 午後6時30分～8時

■場 所 武蔵野市役所4階412会議室

1 開会

2 障害者福祉課長あいさつ

3 配布資料確認

4 議事

(1)武蔵野市障害者福祉についての実態調査票について

【事務局】

資料1について説明。

対象者の抽出にあたっては、複数の障害区分に重複している場合には母数のより大きい区分から抽出している。知的障害の区分において前回から送付数が大きく減っているのは、今回から児童の調査票を分けたことにより、知的障害と児童の両方の区分に重複する対象者が今回は児童に含まれているためである。

【委員】

児童が他の障害区分と重複している場合は、児童ではなくより母数の大きい区分で集計されるということか。

【事務局】

抽出の段階ではより母数の大きな区分で抽出を行うが、抽出された児童については児童の区分に戻して児童用の調査票を送付する。このようにすることで、対象者が少ない区分からの意見を抽出できるよう配慮している。

【委員】

点字版の調査票は作成しないのか。

【事務局】

点字で多肢択一の調査票が作りづらいこと、また回答の集計が難しいことから点字版は作成していないが、ルビ付きの拡大版や、必要に応じて職員が聞き取る形で調査を実施している。視覚障害のある方も数十名含まれているので、相談があった場合には個別訪問も含めて丁寧に対応したい。なお、調査票の注意事項にも、記入が難しい場合には相談いただきたい旨を記載している。

【委員】

調査票を読めない方もいるので、送付状を読みやすいフォントにする、テキストデータ化に対応するなどの工夫をしてほしい。

【事務局】

今回は発送準備の段階に入っているので、次回以降に検討したい。

【会長】

対象者から問い合わせ等があった場合には丁寧な対応をお願いしたい。

(2) 全体会の実施内容について

【事務局】

資料2について説明。

本日の協議会にて、全体の実施内容についてご協議いただきたい。

【会長】

全体会のプログラムについて、前年同様の内容とするか違う形で開催するか、ご意見をいただきたい。

【委員】

今年度1回目の全体会がウェブ開催だったこともあり、協議会の全体像を把握できていない委員もいる。1回目で配信した協議会とは何かという内容を丁寧に説明してほしい。

【会長】

前半の協議会の活動報告のところで、資料に加える等の工夫をしていきたい。今年度はスケジュール等の都合から1回目の全体会を開催できなかったが、やはり協議会について全体で共有する機会が必要との意見もあるので、今後の運営については事務局とも相談しながら検討していきたい。

実施の内容については、昨年までの流れを踏襲する形で準備を進めていきたい。次回の協議会では、グループディスカッションのテーマについて協議する。資料2の裏面にこれまでのテーマを記載しているので参考にしてほしい。

【事務局】

年度初めの全体会については、2年に1度、部会員が入れ替わったタイミングでの全体のキックオフという意味合いもあり、事務局としてもその重要性は認識している令和9年度から始まる次期の活動においては、全体会を対面で開催できるように進めていきたい。来年度については、部会員の入れ替わりの状況を見ながら判断したい。

(3) 専門部会の活動報告について

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

今年度はこれまで3回の活動を実施した。前期で出た地域課題に関する提言をより具体化していくことを今期の部会の目標としている。令和7年度は「ライフステージをまたいだ、こぼれ落ちることのない相談支援」について具体的に検討している。特に、成人期（10代～39歳）、壮年期（40代～64歳）に年代を絞って、ライフステージが大きく切り替わるタイミングでの必要な支援について、誰がいつ何を支援するのかというところをまとめている。また、まとめる過程を通じて各機関との関わりをつくっていくことも必要なので、令和8年度に繋がるようにしていきたい。

【副会長】（相談支援ネットワーク部会）

障害当事者や家族が高齢化していく中で、高齢と障害との連携の部分で、サービスにつながらないということが地域での課題になることが多い。部会の中では、学校を卒業して通所を考えるタイミングで支援からこぼれ落ちてしまうといった課題や、本

人だけではなく家族それぞれに課題があるのに支援につながっておらず、事業所としてどのように支えていくべきか困っているといった事例が上がっている。こうした連携の部分についても考えていかなければいけないと感じている。

【会長】

相談支援ネットワーク部会で上がっている課題について非常に丁寧に資料にまとめていただいているので、こうした課題があるということを各専門部会でも共有してほしい。

【委員】（地域移行部会）

11月26日に5回目の部会を開催した。今年度は1年以上入院している方の地域移行を進めるため、患者本人への退院に関するニーズ調査を実施することを目標として取り組んでいる。具体的には、病院に部会員が出向いて患者及び看護師にヒアリングすることを考えていたが、個人情報の観点から看護師へのヒアリングは難しいということになり、まずは患者本人へのヒアリング行う方向で進めている。現在は個人情報に関する課題について病院と市で調整をしている。今年度中に準備をして来年度から実際に調査をしていきたい。

【会長】

他自治体でも入院患者に対する意向調査を実施している事例があると思うので、そういった情報を収集しながら武蔵野市としての意向調査を進めていきたい。

【委員】（住まい部会）

今期は、前期の活動を通してわかった情報をまとめて、当事者や家族、支援者に共有できるようなパンフレットを作成することになっている。

当事者に話を聞くと、特に知的障害のある方は家族も含めて一人暮らしという選択肢を考えていない方が多い。身体障害や精神障害のある方でも一人暮らしをしている方が少ないことも分かってきたので、一人暮らしを考えるきっかけとなるような、一人暮らしをしたいと思えるパンフレットにしたい。また、パンフレットを作る過程で勉強しなければならないことも出てくるので、部会員が協力しながら全体のスキルアップを図っていきたい。今年度中におおまかな構成を決め、来年度はいくつかのグループに分けて実質的な作成に取り組みたいと考えている。また、作って終わりということではなく、どのように共有・利用していくかも含めて考えていきたい。一人暮らしを考えるとところから人生が一步前進するようなポジティブなものを作りたい。

【委員】（当事者部会）

最初の4か月は今期どのような活動をするか、当事者部会が抱える課題について話し合った。その後の4か月では、主にあったかまつりや模擬選挙に取り組んだ。

100歳を迎えたメンバーのお祝いを西部コミュニティセンターで開催し、同時にアクセシビリティチェックの機会を設けていただいた。当事者部会として参加しているバリアフリーネットワーク会議について、改築した第五中学校の新校舎をチェックをした結果、バリアフリーへの配慮が不十分であることがわかった。

残り4か月で部会内での意見をまとめていく形になるので、自分たちが抱える課題等について活発に話し合っていきたい。

【委員】（当事者部会）

模擬選挙への協力に感謝する。投票人数は前回より増え、無効票は減った。

【委員】（当事者部会）

あったかまつりについて、模擬選挙の準備だけでも大変だと思うが、協議会について知ってもらうための良い機会だと思うので、模擬選挙以外にも何か広報ができるの良いと思った。

【委員】（交流・つどい部会）

9月25日に第3回の部会を開催した。部会では、今年2月に当事者がけやきコミセンの行事に参加した際に和室にスロープが必要だということになったが、その後どうなったかを聞いてみようという話や、他のコミセンでも課題があれば当事者として一緒に考えていきたいという意見があった。けやきコミセンのスロープについては、一度はどのようなスロープを買うか検討しようというところまで話が進んだが、今後コミセンの改修工事をする事が決まったため、改修についての検討の中で意見交換の場を設定することになった。

1月にコミュニティ協議会の各代表が集まる会議があるので、他のコミセンでも改築や備品購入の際にはバリアフリーに配慮いただくよう話しに行くことになっている。

【委員】（交流・つどい部会）

他のコミセンについても今後改修があるので、1月8日のコミュニティ協議会の会議が良い機会となるよう期待している。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

今期から相談支援ネットワーク部会に参加させていただいているが、いろいろな課題が出ていることを改めて実感した。今回、こぼれ落ちることのない相談支援ということで、ステージを区切って検討が必要な部分を深掘りしていくということなので、役に立てることがあれば協力していきたい。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

住まい部会の報告で、知的障害のある方は一人暮らしをするという選択肢を考えている方が少ないとあったが、B型作業所の利用者で地域活動支援センターの協力を得ながらグループホームでの一人暮らしを始めたところ、楽しく生活されていて可能性が広がったという事例もある。そういったチャレンジができる場所につながる働きかけができるように、今後の住まい部会の活動に期待している。

【委員】（住まい部会）

パンフレットの対象者や内容をどのようにするかという点について、いろいろな意見が出たが、最終的には、分かりやすく読みたくなるようなもので、自分たちにも一人暮らしという選択肢があるのだと思えるような入口をつくるという方向で検討が進んでいる。パンフレットは一人暮らしに焦点を当てたものだが、一人暮らしについて考えることが、最終的に自分らしい暮らしを考えることにつながっていくと良いと考えている。他の部会からもアイデアなどあったら、ぜひ寄せていただきたい。

【委員】（交流・つどい部会）

先日、障害のある方のグループホームを見学する機会があった。当事者の話を聞く中で、一人暮らしをしたいという気持ちを強く持っていることがわかり良い機会だった。また、災害時の避難について、災害時にはエレベーターが使用できないし、火災

の時にはエレベーターが火の通り道にもなる。こうした課題について、福祉分野だけではなく防災や消防などの幅広い専門家と一緒に考えていく必要があると感じた。

【会長】

住まいは生活の拠点であり、部会の枠を越えて様々な意見が出るかと思う。防災については過去に防災に関する部会を設置しており、また当事者部会で防災に関するテーマに取り組んでいたこともある。専門部会の設置の有無に関わらず共通して考えていかなければいけないテーマだと思う。

(4)その他

- ・ 障害者福祉センターの一時移転について

【事務局】

資料3について説明。

- ・ 次年度の開催時間について

【事務局】

来年度の会議時間の設定についてご意見があれば伺いたい。

【委員】

当事者部会では途中で休憩を挟んでいる。時間に余裕がある方が参画しやすいので、開催時間を2時間にして間に休憩があると良いと思う。

【副会長】

多くの委員は日中の業務後に参加しているので、休憩を入れたとしても協議に集中できるのは2時間が限界だと思う。

【会長】

できるだけすべての委員に発言いただきたいので、時間がなくて発言できないという状況は避けたいと考えている。ある程度は発言時間の目安を設定しながら、発言の機会をきちんと確保していくことも大事かと思う。一方で、会議全体の時間の枠は決めつつ、議事内容によって柔軟に対応することで無理のない意見交換ができるようにしていくことも必要だと思う。特に、来年度は計画策定があるので、議事の内容、ボリュームが多くなる。事務局とも相談しながら適切な時間を設定したい。

以上